

戦火に散ったアスリート②

373勝の「まれに見る偉人」毒ガスで落命 クリスティーン・マシューソン

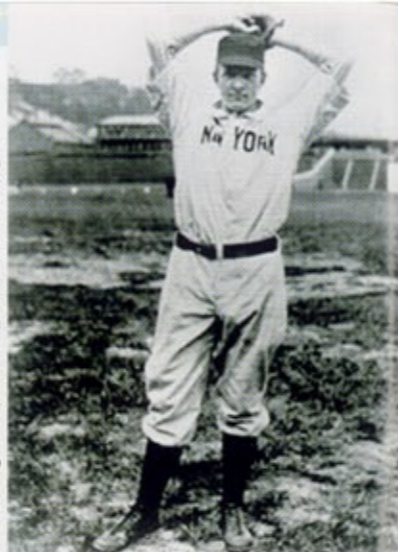
2010年の米大リーグは、ジャイアンツが56年ぶりにワールドチャンピオンとなった。圧倒的不利の下馬評を覆したのは、一にも二にも投手陣の踏ん張りがあったから。西海岸のサンフランシスコに移転後では初めての世界一だが、本拠地がニューヨークにあったころは5度のワールドシリーズ制覇を誇る。古豪ジャイアンツで1世紀前に活躍したクリスティーン・マシューソン投手は、米大リーグ歴代3位となる通算373勝、ノーヒットノーラン2度の球史に残る大投手だ。マシューソンは第1次世界大戦で毒ガスを吸い込み、命を失っていた。

(新聞うずみ火・吉岡雅史)

抜群のコントロールと、「フェイドアウター」と呼ばれた沈む変化球を駆使して、マシューソンは3年連続30勝以上、12年連続20勝以上をマークした。通算防御率は歴代8位の2.13で、79完封は歴代3位と、記録を列挙していつたりきりがない。

ひととき目立つ働きをしたのが1905年のアスレチックスとのワールドシリーズだ。第1戦、3戦、5戦と登板して、すべて完封の離れ業で、チームに初めての世界一の座をもたらした。しかも3試合で許したヒットは合計14本、与えたフォアボールはわずか1個だった。

大エースなのだから当然ではあるが、マシューソンは絶大な支持を得た。優



通算373勝のクリスティーン・マシューソン。ユニフォームが時代を感じさせる

気密室に閉じ込められた16人のうち、8人までは死亡)

復員後、マシューソンは古巣ジャイアンツのコーチやレックスの監督を務めたが、体はじわじわと蝕まれていた。2

秀と評判のニューヨーク消防隊にちなんで「ビッグ・シックス」とも呼ばれ、ファンから愛された。また、敬虔なクリスチャンで、キリスト教の安息日である日曜には登板しなかったことから、「クリスチャンの紳士」とも称された。誠実な人柄は誰もが知るところで、ある試合で微妙な判定になった際、審判がマシューソンに意見を求めたという逸話まで残っている。

1916年に36歳でユニホームを脱いだとき、すでにアメリカは第1次大戦の渦中にあった。引退から1年後に陸軍に入隊したマシューソンは、化学部隊の大尉として欧州戦線に派遣された。

年間の入院生活ののち、ブレーブスの球団社長として招かれたが、25年10月7日に息を引き取った。

その日は、大リーグ・ワールドシリーズの開幕日。パイレーツとセネターズの両軍選手は喪章代わりに黒いアームバンドをつけてプレーし、大投手の死を悼んだ。

36年に第1回殿堂入り投票が行われると、マシューソンは文句なしに選ばれた。ほかの顔ぶれは、国民的英雄ベーブ・ルース、球聖・タイ・カッパ、人間機関車・417勝のウォルター・ジョンソン、そしてルースの前の世代のスー

第1次世界大戦は1914年、オーストリアの皇太子が銃撃された「サラエボ事件」をきっかけに、ドイツ・オーストリア・オスマン帝国などの同盟国側と、英仏露を中心とした連合国側による紛争が、世界を巻き込んだ。日本は日英同盟に基づき14年8月に参戦。英仏の輸送船団を護衛し、連合国側の勝利に貢献した。

その結果、アジア太平洋地域への日本の影響力が高まったことが、同じ連合国であるアメリカの利権を脅かしかねないとして、米国内で日本への脅威論が膨らんでいく。それがやがて第2次世界大戦の火種となるわけで、戦争に正義などないことを、改めて思い知らされる。

第1次大戦では、ドイツ軍によって初めて毒ガスが兵器として使用された。大戦終盤の18年、フランスのハンロン練兵場での訓練中に誤って、マシューソンは毒ガスを吸い込んでしまう。これが原因で肺結核を患った。

同じ部隊には、首位打者12度、通算4191安打のタイ・カッパもいて、カッパの自伝に、事故の詳細が記されている。

〈当時の我々の訓練の一つに、兵士たちを気密室に送り込んで、ほとんど警戒なしに毒ガスを放出するという、危険なものがあつた。(中略)この訓練がマシューソンを死に追いやったのだ。彼の上に突然降りかかった、あの忌まわしい運命の日のことを、私は今もまざまざと覚えている。(中略)あゝのとき

パースター、ホーナス・ワグナー。この5人は「ファースト・ファイブ」として、本場の野球の殿堂でも別格扱いとされている。

タイ・カッパは、粗暴な振る舞いや横柄な態度から「最も偉大かつ、最も嫌われた選手」として、アメリカ野球史に名を残す。しかし、悪役カッパのマシューソン評は、いたって謙虚である。

〈彼は数々の大記録を残したが、私が思い出すのは、その面での彼ではない。スポーツ界にまれに見る偉大な人物、偉大な競技者としての彼に対し、私は衷心からの尊敬をささげるものである〉

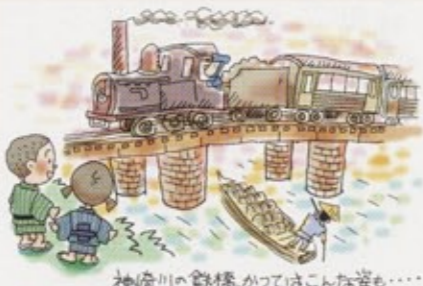


勝手に吹田遺産 その16 現役で3世紀 阪急千里線神崎川鉄橋の橋げた

30年以上も前の時効になった話。神崎川に架かる人道橋緑風橋が無かつたころ、身内につれられて終電後の阪急千里線の神崎鉄橋を渡って帰ったことがある。線路の横に張り出した点検用の道を歩くのだが、向こうから回送電車がやってきて「きょっ」としたものだ。

この阪急千里線の神崎川鉄橋、以前から鉄道マニアの間では隠れた名所になっていた。それは鉄橋をささえる橋げたの一部が明治9年に開通した旧国鉄東海道線の橋げたをそのまま使っているからで、緑風橋の横から眺めても、赤レンガの丸い橋げたや四角いのやら、コンクリート製やら、不細工な積み木細工のように橋げたが積み上げられ、その上を阪急電車が走っている。

開通当時の国鉄東海道線は、現在の大阪、東淀川、吹田ではなく、阪急電車が走っている神



神崎川の鉄橋。かつてはこんな姿も...

崎川から首を出した丸いレンガ造りは、1920、21世紀と3世紀にわたって黙々と電車の通行を支えてきたのだ。今、阪急は淡路駅からの高架工事を始めており、この不揃いな名物鉄橋も架け替えられることになる。あの赤レンガの一部が歴史遺産として残るかどうかは知らないが、とりあえず「勝手に吹田遺産」として「3世紀にわたって現役御苦労さん」と言いたい。

画・文 高宮 信一

フォーカス

久しぶりに千里ニュータウンを訪れて、目を見張ったのはその姿容ふりだ。南千里駅南西側の団地群はまったく姿を消し、テレビCMのいう「千里最大級」のマンション建設が進んでいる。府営住宅の高層化によって生みだされた「余剰地」にも、かつての「社宅」の跡地にも、高層マンション建設の音が響く、ちょっとした建設ラッシュだ。ニュータウン以外でも、千里丘地域の毎日放送跡地では、1600戸もの大型マンションが建設中で、小学校を新設しなければならぬほどである。

1960年代、高度経済成長で大都市圏に人口は流入、千里ニュータウンをはじめ住宅建設が進み、吹田市の人口も急速に増加した。しかし、出生率が低下し、日本の人口は2004年をピークに右肩下りの時代を迎えている。吹田市の人口は現在35万人、ここ数年微増傾向だが、吹田市も将来人口は「2020年に35万人」と現状維持を予測、遅かれ早かれ減少に転じることは間違いない。

今でも、吹田で2万2680戸、住宅全体の12.9%(2008年住宅・土地統計調査)が「空き家」であり、その数は増え続けている。供給過剰気味の住宅、減り続ける人口、とくれば、大量の「空き家」「空き地」、そして「空き地域」というまちの模様が目に浮かぶ。その上に、無計画なマンション建設や高層化。放っておいていいわけがない。

人口減少と急速な高齢化、住宅に困っている人たちもいれば、消防車も通れない住宅密集地域もある。こうした課題に因應するために、これ以上まちを拡大せず、修復・保存型の計画的なまちづくりで舵を切らなければならぬ局面だ。阪口市長のように「千里ニュータウンを世界遺産に」などと浮かれている場合ではないのである。(ともはる)